＜日本組織適合性学会誌 MHC の投稿規定＞

1. 投稿規定

1. 1. 原稿様式

提出原稿がそのまま電算写植で印刷できるように，原稿は全て，コンピューターのフロッピーディスクとA４サイズとプリントアウトしたものの両者を提出する。一般的なワープロソフトを使用し，ソフト名を明記する。字体，サイズ，行の字数，行間，などの体裁は自由とする。また，図表については，写植でそのまま掲載できるものを提出するが，挿入箇所を本文に指定する。図については天地を明示する。印刷の際に，縮小または拡大する場合があるので，考慮すること。また，図表の題や説明はワープロで，本文とは別頁に添付する。なお，掲載された論文等の著作権は，日本組織適合性学会に属し，インターネットを通じて電子配信されることがあります。

1.2. 原著論文

会員からの投稿を原則とするが，編集委員会が依頼することもありうる。日本語，英語を問わない。最初の一頁はタイトルページとし，タイトル，著者名，所属，脚注として代表者とその連絡先（電話，FAX, E-mail，郵便番号，住所）を記す。タイトル，著者名，所属は次の様式にしたがう。

Serological and nucleotide sequencing analysis of a novel DR52-associated DRB1 allele with the DR'NJ 25' specificity designated DRB1*1307.

Toshihiko Kaneshige[1], Mitsuo Hashimoto[2],
Yayoi Murayama[1], Tomoko Kinoshita[2],
Tsutomu Hirasawa[1], Kiyohisa Uchida[1],
Hidetoshi Inoko[3]

1） Shionogi Biochemical Laboratories, Shionogi Company, Osaka, Japan
2） Kidney Transplantation Center, Hyogo Prefectual Nishinomiya Hospital, Hyogo, Japan
3） Department of Molecular Life Science, Tokai University School of Medicine, Kanagawa, Japan

HLA class ⅡのDNA typingとMLC

能勢　義介[1]，稲葉　洋行[1]，荒木　延夫[1]，浜中泰光[1]，阪田　宣彦[1]，土田　文子[2]，辻　公美[2]，成瀬　妙子[3]，猪子　英俊[3]

1） 兵庫県赤十字血液センター，検査課
2） 東海大学医学部，移植免疫学
3） 東海大学医学部，分子生命科学

内容は，二頁目よりはじめ，要約（Summary），はじめに（Introducution），材料と方法（Materials and Methods），結果（Results），考察（Discussion），参考文献（References）の順に記載する。また，要約の末尾に日本語で５語以内のキーワードを加える（英文の場合には英語の Key words を加える）。脚注は適宜，設けてもよい。日本語で投稿の場合には，末尾に英語のタイトル，著者名，所属（様式は上述に従う），英語の要約と英語で５語以内の Key wards をつける。枚数に特に指定はないが，速報的な短報（全体で，2,000～3,000字，出来上がりA４版で２～４枚程度）を中心とする。もちろん，フルペーパー（full paper）も歓迎する。また，新対立遺伝子，日本人に認められた希な対立遺伝子に関する報告も受付ける。なお，参考文献（References）の記載については，下記１.５を参照すること，オリジナル１部にコピー３部を添えて，編集長宛（下記３参照）に送付する。

1.3. 総説，シリーズその他

編集委員会からの依頼を原則とするが，会員からの投稿も大いに歓迎する。日本語を原則とする。タイトル，著者名，所属は上記１.２.の通りにしたがい，要約と要約の末尾に日本語で５語以内のキーワードを添える。その他の体裁は自由とするが，構成がいくつかの章，節などから成る場合には，次の番号に従い，適当な見出しを添える。

1.　2.　3.　4. ・・・・・・・・
　1.1.　1.2.　1.3.　1.4.・・・・・・
　　1.1.1.　1.1.2.　1.1.3.・・・・・・

脚注は適宜，設けてもよい。なお，参考文献（References）の記載については，下記1.5.を参照すること。

1.4. 校正

校正は編集委員が行い。特別な場合を除き，執筆者は校正を行わない。

1.5. 参考文献

参考文献は，本文中に数字で，例えば（3），の様に表示し，末尾にまとめて，次のようなスタイルで記載する。ただし，著者名，または編集者名は，筆頭3名まで記載し，以下は省略する。

1. Kaneshige T, Hashimoto M, Murayama A, *et al.*: Serological and nucleotide sequenc-ing analysis of a novel DR52-associated DRB1 allele with the DR'NJ25' specificity designated DRB1*1307. *Hum. Immunol.* **41**: 151 - 160, 1994.
2. Inoko H, Ota M: *Handbook for HLA Tissue- Typing Laboratories* (eds. Bidwell J, Hui KM), PCR-RFLP. CRC Press, Boca Raton, 1993; p. 1 - 70.
3. 能勢義介，稲葉洋行，荒木延夫ら: HLA class ⅡのDNA TypingとMLC, 輸血, **39**: 1031 - 1034, 1993.
4. 猪子英俊，木村彰方: 岩波講座分子生物科学11巻，生物体のまもりかた（本庶佑編），自己と他の識別，岩波書店，東京， 1991; p.129 - 194.

2. 別刷

原著論文については，別刷は有料とする。その費用は部数，頁数による。

3. 原稿送付先

〒259 - 1193　神奈川県伊勢原市望星台
東海大学医学部　分子生命科学系遺伝情報部門　日本組織適合性学会誌MHC
編集長　猪子　英俊
TEL：0463 - 93 - 1121　内線2312
FAX：0463 - 94 - 8884
E-mail：hinoko@is.icc.u-tokai.ac.jp

編集後記

今号は組織適合性学会第11回大会の抄録号である。大会も既に11回を数えたし，今年度からは組織適合性，特にHLAタイピングの技術と知識に関する学会の認定制度も始まっている。HLAは移植片の生着予後を規定する分子（移植抗原）として発見され，移植における有用さゆえにその多型性が研究対象となり，また種々の疾患（特に原因不明の自己免疫疾患など）の遺伝マーカーとしても解析が進められた。さらに，HLAの本来の役割である微生物感染や悪性腫瘍細胞の除去機能との関連で，HLA研究は多方面への展開を遂げて来た。

HLAはその著明な多型ゆえに，なにやら分かりにくい分子として専門外の方々に捉えられているようであるが，このようなHLA研究はヒトゲノムプロジェクトの目的のひとつである「疾患関連多型の同定」の先駆的な研究であるともいえる。疾患関連多型研究を例に取れば，疾患感受性をSNPとの関連として始めて指摘したのは，John Toddらの若年性糖尿病とDQβ鎖の５７番アミノ酸non-Aspとの相関説である。しかしながら，この説は日本人における感受性を説明出来ないことは明白であり，さらには若年性糖尿病の発症頻度が最も高い北欧欧米人でも必ずしも当てはまらない。HLAと若年性糖尿病感受性の相関の分子機構はまだ明らかにはされていないが，DQB1遺伝子が単独で疾患感受性を規定している訳ではなく，HLA領域内の複数の遺伝子における多型の機能的相違の総合として疾患感受性が決まるのではないかと思われる。このことは若年性糖尿病に限ることではなく，HLAとの相関が明らかな慢性関節リウマチについても言える。さらに言えば，乾癬の場合のように，HLA分子の多型との相関は真の疾患感受性遺伝子とHLA多型との連鎖不平衡の結果に過ぎないこともある。

このようにHLA研究のこれまでの歩みは，今後の疾患関連遺伝子探索における研究上の数々の留意点を教えてくれる。疾患感受性研究に限らず，HLA研究の先駆者達や現在の学会員個々人のこれまでの努力が実り，新たな局面に向かって発展する時代を迎えたのである。「HLA学」をより分かりやすい言葉でより多くの研究者に伝え，より広範かつ詳細なHLA研究の基礎的，臨床的な展開をはかることが，本学会の使命であろう。本年５月には第13回国際組織適合性ワークショップが開催された。また，来年９月には第12回日本組織適合性学会と第７回アジアオセアニア組織適合性ワークショップが合同開催される予定である。このような国際学会は日本からの情報発信の場である。さらに，今号のMHCには海外からの投稿論文が初めて掲載されたが，MHCも日本からのHLA研究に関する情報発信の一手段となった。会員諸兄のなお一層の論文投稿を歓迎する。（木村彰方）

MHCバックナンバー

一冊￥2,000にて購入可能です。学会事務局までお問い合わせください。発行より２年を経過したものは，在庫が少数になっている場合もありますのでご了承下さい。

入会・変更

新入会，住所変更は学会事務センターまでお問い合わせください。また，日本組織適合性学会ホームページの入会申込書もご利用下さい。

（社）学会事務センター
〒113-8622
東京都文京区本駒込5-16-9　学会センターC21
TEL：03-5814-5810
FAX：03-5814-5825

日本組織適合性学会ホームページ

学会活動に関する情報やHLA遺伝子の塩基配列情報が利用できます。

http://square.umin.ac.jp/JSHI/mhc.html
http://jshi.umin.ac.jp/mhc.html

MHC
Major Histomcompatibillity Complex
Official Journal of Japanese Society for Histocompatibility and lmmunogenetics
2002年８月31日発行　　９巻２号，2002
定価　2,000円
発行　日本組織適合性学会（会長　猪子　英俊）
編集　日本組織適合性学会編集委員会（編集担当理事　猪子　英俊）
平成８年７月24日　学術刊行物認可

日本組織適合性学会事務局（事務担当理事　十字　猛夫）
〒259−1193 神奈川県伊勢原市望星台　東海大学医学部分子生命科学系遺伝情報部門内
印刷・（株）栄文舎印刷所
〒229-1101　神奈川県相模原市相原２−12−1